

10.九州（地域別調査機関：（財）九州経済調査協会）

（－：回答が存在しない、○：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連	良く なっている	旅行代理店（企 画）	来客数の動き	・客の様子をみると、寒さが和らぎ桜の開花宣言も出たことで、旅行に対する支出意欲が高まっている。
	やや良く なっている	一般小売店〔精 肉〕（店員）	販売量の動き	・今月は多量の受注があり、好調であった。
		百貨店（売場主 任）	販売量の動き	・東日本大震災の影響で今年3月の売上の前年比が良いのは当然のことであるが、紳士の重衣料、高額商品の動きが良い。購買を我慢していた富裕層が、以前よりは積極的に購買し始めている。
		百貨店（総務担 当）	販売量の動き	・東日本大震災や駅ビル開業の影響があった前年を実質的に越える状況となっている。
		百貨店（営業担 当）	単価の動き	東日本大震災と九州新幹線前線開業から1年が経過し、買物をする客が増えてきた。また、観光客の増加や婦人雑貨の新ブランドの導入、既存ブランドの拡大、店頭のリニューアルにより、平日、土、日祝いずれも来客数が増加している。近隣通り会と一体となった集客策が功を奏し、街ににぎわいがみられる。
		コンビニ（店 長）	来客数の動き	・卒業式シーズンや春休みの影響で、客が多くなっている。
		衣料品専門店 （経営者）	単価の動き	・創立100周年の記念行事のおかげで、順調に推移している。
		衣料品専門店 （チーフ）	それ以外	・3月初旬来客数が依然減少する見込みであったが、月末を迎えるにつれ、3月の前半に来なかった客の来店があり、後半の売上がかなり伸びている。
		乗用車販売店 （従業員）	販売量の動き	・エコカー減税、補助金の効果で受注が伸びている。
		乗用車販売店 （総務担当）	販売量の動き	・今月は例年販売が増える月である。3か月前と比べ新車、サービス共に増収となっている。特に今年は新車販売が新型車効果とエコカー減税、補助金のダブル効果で大幅な増収となっている。
		自動車備品販売 店（従業員）	お客様の様子	・新車販売動向が良くなっている。
		その他専門店 〔コーヒー豆〕 （経営者）	来客数の動き	・最近暖かくなってきたせいとか、ここ数日間、客の入りがかかなり増えつつある。
		その他専門店 〔書籍〕（地区 支配人）	販売量の動き	・販売量は前年を数%程度上回って推移している。決して上昇基調にあるわけではないが、通減傾向から横ばいになりつつある。また販売力のある書籍が供給されており、売上の増加をあと押ししている。
		その他小売の動 向を把握できる 者〔土産卸売〕 （従業員）	販売量の動き	・昨年の3月は売上が大幅に減少していたが、東日本大震災の復興及び九州新幹線全線開業の影響で、今年は前年を20%を超えるほどに回復している。
		その他小売の動 向を把握できる 者〔ショッピング センター〕 （総支配人）	来客数の動き	・前年と比較すると、来客数、売上共に増加している。2、3か月前と比較しても上昇基調になっている。
		その他飲食〔居 酒屋〕 （店長）	来客数の動き	・当地は九州新幹線全線開通によって、県外客が著しく増えており、びっくりするほどにぎわっている。ただ、消費者の財布のひもは固い。
		観光旅館組合 （職員）	来客数の動き	・東日本大震災から1年が過ぎ、海外からの客が多くなっている。
		都市型ホテル （副支配人）	販売量の動き	・特別大きな団体があるわけではないが、九州新幹線あるいは駅ビル開業1周年等を含め、当地に客が増えている。
		旅行代理店（従 業員）	販売量の動き	・3月に入り取扱量が増えている。3月後半は、東日本大震災があった前年の反動で大幅に伸びている。
		通信会社（総務 局）	販売量の動き	・キャンペーンを1か月前倒しで始め、入学や就職の時期ということもあり、景気は良くなっている。
通信会社（業務 担当）	販売量の動き	・3月も2月に引き続き、卒業シーズンで年間でも最大の需要期である。今年は特にスマートフォンの人気ピークに達し、販売台数が伸びるとともに、アクセサリーやSDカード等の関連商品の売上も好調を持続している。		
美容室（店長）	お客様の様子	・旅行に行く予定があるという客が多くなっている。		

	住宅販売会社 (代表)	お客様の様子	・暖かくなってきて、客の動きがかなり出ており、問い合わせも多くなっている。新築に関しては、消費税の増税があるので、それを見越して受注依頼が多くなっている。
変わらない	商店街 (代表者)	お客様の様子	・例年3月になって気温が上がれば客の動きが良くなり、それに伴い洋服等が売れる。ただし、今年は3月になっても気温が上がらず、客は極端に買い控えている。
	商店街 (代表者)	お客様の様子	・商店街の来客数がかかなり減っており、客単価も下がっている。客の財布のひもは非常に固い状況である。
	商店街 (代表者)	販売量の動き	・3月になって天候も大分回復し、過ごしやすくなったが、来客数や売上は伸び悩んだ。
	商店街 (代表者)	それ以外	・景気が良くなる材料がない。消費税増税法案が上がっており、景気が良くなるはずがない。
	商店街 (代表者)	来客数の動き	・好天の週末は来客数が増加しているが、平日の来街者が減少傾向にあり、景気は相変わらず低迷している。
	百貨店 (営業担当)	お客様の様子	・来客数はやや苦戦しているが、前年の東日本大震災以降の客の買い回りの状況は転勤、異動等の典礼ギフト等で堅調な動きをみせており、やや回復基調が先月と変わらない状況である。
	百貨店 (売場担当)	競争相手の様子	・3か月前の12月の競合店3店の売上はそれぞれ前年比8%増、同5%増、同12%増であったが、今月は前年比4%増、同4%増、同9%増と前年実績は超えているものの、12月と比べると悪い。しかし、状況的には悪くはなく、競合店の閉店と東日本大震災の影響で落ち込んだ前年の反動で良くなっている。特に婦人用品が前年比20%増と伸びている。食料品については前年比横ばいであったが、身の回り品は同12%増となり身の回り品や衣料品関係が売上の増加を牽引している。ただし、紳士服については横ばいであった。
	百貨店 (営業統括)	来客数の動き	・来客数の減少幅が3か月前と大きくは変わらない。また、客単価も上がっていない。
	百貨店 (営業政策担当)	競争相手の様子	・東日本大震災から1年が経過し、弊社でも当月の短期間業績はプラスに転じている。しかし九州全体では、長く前年実績を上回ってきた百貨店において、マイナスに転じたところもあり、足元の景気が回復しているとは言えない。
	百貨店 (企画)	販売量の動き	・寒さの影響で動きが鈍かった春物衣料がやっと動き出した。ただし、前年比でみた場合は、前年の東日本大震災の影響があったり、催事の有無等で判断は難しいが、想定したほどの売上は確保できていない。
	百貨店 (業務担当)	お客様の様子	・3月と言えば衣替えによる春物需要により支えられるが、今年は気温がなかなか上がらず、春物衣料の動きが遅れている。ただし、時期的に必要な物の動きは堅調である。
	スーパー (店長)	販売量の動き	・3月に入っても例年より気温がかなり低く、春物商材、特に衣料等の販売量の動きが前年に比べて大変悪い。また、ここ2、3か月と比較しても衣料品全体の動きが良くない。食品については青果物特に野菜の価格が高止まりとなっており、客単価が多少高いため、全体的には安定した状況にある。
	スーパー (店長)	来客数の動き	・競合店の状況もあるが、来客数が全然伸びない。
	スーパー (総務担当)	単価の動き	・来客数は前年を若干上回っているが、前年の震災後の買い置き需要の反動で客単価は前年を下回っている。
	スーパー (経理担当)	販売量の動き	・1年前の自粛ムードや品不足から正常な営業に戻っているが、競合店の出店が多く、競争が激化しており、厳しい状況となっている。
	スーパー (業務担当)	お客様の様子	・年度末を迎え、家具や家電製品などの新生活需要に若干の動きはあるが、例年に比べて来客数は少なく、高単価商品の動きは低迷している。生活必需品の需要期なのに、節約、儉約志向が強く大型商材が動かない。
スーパー (売場担当)	お客様の様子	・毎月お客さんの動きが変わらない。気温が上がり、行楽関係の商材の動きは良くなっている。	
コンビニ (エリア担当・店長)	販売量の動き	・移転オープンから1年が過ぎ、少しは客の認知度が高まったが、プラス1品の買物が伸び悩んでいる。	

衣料品専門店 (店員)	販売量の動き	・セレモニー用のスーツの売上が減少している。気候のせい、スプリングコートの売上が少なかった。前年割れのペースでここ数カ月推移している。
衣料品専門店 (取締役)	お客様の様子	・3月前半は寒い日が続いたり、風が強い日が続いたりという傾向が定着しているため、3か月前も今もあまり変わらない。ただ、3月後半の景気は良くなり、明るい感じにはなっている。
衣料品専門店 (総務担当)	お客様の様子	・ある時は非常に簡単に高額品を買う客がおり、またある時は中級品に対して慎重な購買態度を取る客もいる。景気判断が難しい局面にある。
家電量販店(総務担当)	販売量の動き	・商戦の盛り上がりがなく、家電業界全体の冷え込みを切実に感じる。
住関連専門店 (経営者)	単価の動き	・3月に順調だった学習機の動きが、今期は早めに止まった。毎月のキャンペーンは3月は順調だったが、店全体としては売上が減少している。
その他専門店 [ガソリンスタンド] (統括)	お客様の様子	・燃料油の小売価格は、数か月前と比較すると上昇しており、客の節約志向がうかがえる。
高級レストラン (支配人)	来客数の動き	・来客数に変化がない。
高級レストラン (従業員)	来客数の動き	・来客数は多いが、売上は伸び悩んでいる。
一般レストラン (経営者)	販売量の動き	・今月は歓送迎会等が入るため、12月と似たような動きがある。前年の年末は、東日本大震災後の落ち込みがあったが、3月はまた伸び悩んでいる。
一般レストラン (スタッフ)	お客様の様子	・学校の卒業式があり、若い客は多いが、一般客は伸び悩んでいる。
スナック(経営者)	来客数の動き	・来客数は月末に若干取り戻したが、それまでの状況がひどく、厳しい状況となっている。
観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・前年は東日本大震災の影響でキャンセルが相次いだが、今年はその反動で、予算、来客数共に大幅に伸張している。
タクシー運転手	お客様の様子	・3月上旬は昼、夜ともに動きが良くなってきたが、半ばを過ぎると昼の利用が激減し、宿泊でも団体でも夜の送迎も少しずつ減り、タクシー利用がすごく落ち込んでいる。
タクシー運転手	来客数の動き	・今月は3か月前に比べると横ばいの状況である。
タクシー運転手	来客数の動き	・日中の繁華街は客の動きが大変悪い。また歓送迎会のシーズンであるが、例年になく繁華街の客が少なく、思うように売上が伸びない。
タクシー運転手	お客様の様子	・3か月前と比べて、人の流れは変わらない。
通信会社(管理担当)	それ以外	・資金繰りが厳しい状態が続いている。
通信会社(営業担当)	それ以外	・現在、消費税増税問題や日経平均株価、あるいは為替レート等良い話がないなか、景気はなかなか上向きにならない。
通信会社(企画担当)	販売量の動き	・競合事業者の新サービスが投入されたが、販売量に大きな変化はみられない。
テーマパーク (職員)	来客数の動き	・3月は謝恩会や卒業式等の利用はあったが、宿泊やゴルフ、各種スポーツなど全体でみると、ここ数か月の状況に変化はない。
ゴルフ場(従業員)	来客数の動き	・今月は今年に入って好調な月であった。計画的な旅行でゴルフに来る客や直前のインターネット予約客が増えている。また、直接予約してきたインバウンド客なども増え、当初の予約数より増えている。
美容室(経営者)	販売量の動き	・景気がどんどん良くなるといけない時期であるが、今一つ上がっていない。国会において、景気回復の計画がなされていないためである。消費税が増税されれば、景気はますます悪くなる。消費税を上げる前にやるべきことがある。それを先にして国民の気持ちを考えてあげれば、景気は向上しない。
その他サービスの動向を把握できる者[介護サービス](管理担当)	来客数の動き	・3月は例年大幅な客の増加が見込まれるが、医療報酬及び介護報酬改定の影響で利用控えの傾向が強まっており、客の増加幅が小さい。
住宅販売会社 (従業員)	お客様の様子	・不動産の宅建業仲介は、前月と比べて土地の問い合わせ件数、制約等に変化はあまりない。

やや悪くなっている	一般小売店〔青果〕（店長）	お客様の様子	・当地は2、3月に特産品の日向夏という果物があり、例年それを県外に発送するが、前年の猛暑の影響もあって全体の生産量は前年より少ない。それでも前年並みの値段は出ない。消費者は買い控えの傾向があり、横並びで果物、野菜も同じような傾向となっている。
	一般小売店〔鮮魚〕（店員）	来客数の動き	・天気が悪く、入荷量が少ない。魚価が高いことも要因としてあるが、売上は鈍っている。
	一般小売店〔茶〕（販売・事務）	来客数の動き	・客単価は低く、まだ寒さも残っているため来客数も少ない。不景気からか空き店舗がかなり増え、客足が遠退いている様に感じられる。
	百貨店（営業担当）	お客様の様子	・株価が回復しており、高額品の動きが極めて良くなっている。それに比べてそうではないところの層の買上はまだまだ厳しい状況である。高級既製服を中心とした春物ファッションの動きが良く、年代的には50代以上の客層がかなり回復してきている。
	スーパー（店長）	販売量の動き	・前年は東日本大震災もあり、旅行等のキャンセルでかなり売上が落ちた。今年に入って、その分が大幅な伸びとなり、売上が上がっている。ただし、食品に関しては非常に厳しい状況が続いている。
	スーパー（店長）	お客様の様子	・東日本大震災後の需要増による前年の反動減もあったが、競合店の出店により、更に厳しい状況が続いている。特に単価は落ちてないが、買上点数がかなり落ち込んでいる状況である。
	スーパー（店長）	それ以外	・生鮮食品の価格は相場高で売上は良いが、前年に東日本大震災の影響で特需があった一般食品や加工食品、飲料、乾電池で反動減となっている。
	スーパー（店長）	単価の動き	・競合店舗の増加で単価が低下している。加えて客の低価格志向は以前に比べると顕著となっている。
	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・今月は寒暖の差が激しく、春先の売行き商品である飲料の売上が大幅に減っている。また、春休みに入った途端前年比10%減となっており、厳しい状況である。
	コンビニ（販売促進担当）	販売量の動き	・今月の実績は前年比0.2%増となっている。パンの販売動向は前年比10%の減少となった。
	家電量販店（店員）	販売量の動き	・家電については、前年、テレビの駆け込み需要があった月でもあり、現状は非常に悪い。3か月前も悪かったが、今月も悪く、景気は上向かない。
	高級レストラン（経営者）	来客数の動き	・忘年会と比べると歓送迎会は、今一つ予約が入らなかった。大きい団体がもう1つ、2つ入れれば店としての景気は良くなっていたが、それがなかったため景気は悪い。
	ゴルフ場（支配人）	来客数の動き	・本来3月は寒さも緩み、春に向けて客足も上向くが、今年の3月は半数以上が雨であり、来客数が伸びない。
音楽教室（管理担当）	来客数の動き	・無料の体験レッスンには客は来るが、お金を払うレッスンへの継続にはつながらない。	
悪くなっている	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・依然として気温が低い状態が続き、来街者がほとんどない。
	衣料品専門店（店長）	来客数の動き	・ここ2、3か月、来店する客が非常に少ない。景気が悪く、来客数が少なくなっている。この落ち込みは今まで経験したことがない。
企業動向関連	良くなっている	新聞社（広告担当者）	受注量や販売量の動き ・化粧品や食品関連の広告出稿が好調であり、前年比2倍以上の伸びである。この2業種が牽引する形で全体でもプラスとなっている。前年は東日本大震災の影響があったが、一昨年と比較しても若干程度上回っている。
	やや良くなっている	繊維工業（営業担当）	受注量や販売量の動き ・先月まで閑散期にはどうなるか心配していたが、2か月先まで仕事がある。東日本大震災の影響で全く仕事の受注がないことも考えられたため、珍しい現象である。
		家具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き ・オフィス家具やコンラクト家具共に久しぶりに忙しさが戻ってきた。民間商業施設の出店が相次いだため、木工所もキャパをオーバーする事態となった。特に3月度は大型の物件が多くなり、職人が不足している。オフィス家具も前年比20～40%程度伸びた。
	窯業・土石製品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き ・受注関係は以前よりも大分良くなっているが、円安であり、原油価格の高騰でガスの原料が大分高騰しており、景況感に変動はない。	

	電気機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・受注量が急激に拡大している。景況感の良い方向に向かっており、仕事をこなすのに苦慮するような状態である。
	通信業（経理担当）	それ以外	・株価の動きが上昇傾向にある。
	金融業（営業担当）	取引先の様子	・リーマンショック以降マンション等の完成在庫が減少したため、市内を中心に大手銀行が箱もの融資に対して積極的な姿勢を継続している。ゼネコンやその中小の下請け企業は受注量が増加している。また年度末でもあり、繁忙を極めている様子である。
	金融業（調査担当）	取引先の様子	・期末という特殊要因もあるが、資金需要や資金の動きが多少多くなっている。
	経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・受注量や見込案件数が増えており、企業の投資意欲は衰えていない。
変わらない	農林水産業（経営者）	受注量や販売量の動き	・3月は年度末ということもあり、前月と比べると上向いている。加工メーカーは原料肉の供給が少なく、引き合いは相変わらず強い。ただし、量販店や居酒屋は前年に比べて動きが少し弱い。
	食料品製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・例年であれば、この時期は仕事量が減るが、今年は今のところ安定的に受注がある。
	一般機械器具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	・東日本の復興需要や円安など景気回復の条件はあるが、電機業界は大企業の落ち込みも激しく、景気の上昇機運は感じられない。
	精密機械器具製造業（従業員）	受注量や販売量の動き	・依然として受注量は変わらず厳しい状況が続いている。
	輸送用機械器具製造業（営業担当）	受注量や販売量の動き	・生産量が横ばい傾向である。
	輸送業（従業員）	受注量や販売量の動き	・今月は決算期にもかかわらず、物の荷動きが悪く、特に雑貨や紙、鉄等の動きが非常に悪かった。飲料関係はそこそこ動きがあった。
	輸送業（総務）	受注量や販売量の動き	・2月は例年のことであるが、落ち込みが大きい。特に今年は厳しい。
	金融業（得意先担当）	取引先の様子	・取引先の状況を見ると、金融円滑化法のもとで耐え忍んでいる企業もあれば、条件変更もせず企業努力により事業を行っている企業も多くある。競争原理の社会のなかで一生懸命頑張っている企業がなかなか報われないといった状況下にあるのが実情である。現状そういったこともあり、前向きな資金対応がない。
	金融業（営業）	取引先の様子	・取引先の様子をみると、製造業でも造っているものにより業況が大きく違う。自動車部品などは回復傾向にあり、生産は順調である。一方、電機関連は海外移転を進めており、下請けメーカーでは雇用調整助成金を申請して休業する企業もみられる。
	経営コンサルタント	受注量や販売量の動き	・前年から仕事量が増えていない。そして仕事の内容は新しい仕事よりも守り姿勢の仕事のほうが多い。
	経営コンサルタント（代表取締役）	受注量や販売量の動き	・3か月前と今月は横ばいで、目立った変化はない。
	やや悪くなっている	その他サービス業【物品リース】（役員）	受注量や販売量の動き
一般機械器具製造業（経営者）		受注量や販売量の動き	・定期的に受注していた半導体関連の加工部品が半減している。また自動車関連の機械部品加工も少なくなっている。
建設業（社員）		競争相手の様子	・東日本大震災の影響がまだあるのか、官公庁からの繰越工事が発注されていない。民間工事が微増しているが、業者を潤すほどの工事量は見込めない。下請け受注に向けて見積単価の低下が心配される。
悪くなっている	輸送業（総務担当）	取引先の様子	・例年お預かりしている荷物は年度末は少し動きが良くなるが、今年は全然違っており荷動きは良くならない。
	農林水産業（従業員）	受注価格や販売価格の動き	・食肉関係は3月に入れば、ある程度景気は良くなるが、非常に寒く天候が悪いので、厳しい状況である。
	経営コンサルタント（社員）	取引先の様子	・消費者のアルコール離れで消費が減少したため、酒卸問屋、小売店が倒産している。

	その他サービス業〔設計事務所〕（代表取締役）	競争相手の様子	・東日本大震災復興のための事業で、全国的に営業所がある企業は調査や設計の人員を東北に派遣し、臨時の事務所を設けて仕事を受注し、景気が良くなっている。しかし県内だけに営業所のある中小企業はその対応ができない。さらに、県内の建設需要は低迷しており、厳しい状況である。	
雇用 関連	良くなっている	—	—	
	やや良くなっている	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・単発、短期ではあるが、新規雇用分での注文が多くなっている。
		新聞社〔求人広告〕（担当者）	周辺企業の様子	・アジアの玄関口として中国や韓国の観光客の増加が鍵となる。春休みに入り、九州新幹線全線開業の効果などに伴い九州内で観光客が増えている。また、韓国や中国への飛行機の定期便も良い効果がある。
		職業安定所（所長）	求人数の動き	・3月の新規求職者数は2月に比べ3%程度の増加となる。また求人数も依然として前年より増加傾向を続けており、3月は先月に比べ5%程度の増加となる。求職者数は減少傾向で、求人数は増加傾向が続き、景気は回復基調にある。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は前年比9.7%増となっており、19か月連続でプラスに推移している。このため、企業間で業況に差があるものの、改善傾向で推移している。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数は4か月連続の増加となり、新規求職者数は5か月連続で減少している。有効求人倍率は2か月連続で0.7倍台となった。雇用情勢に若干の改善の兆しが見受けられる。
		学校〔専門学校〕（就職担当）	求人数の動き	・多くの業界で採用の話が出ており、景気は上向きの状況となっている。西日本の支店や本社の一部が移転してきており、そこでの採用も増えている。
変わらない	求人情報誌制作会社（編集者）	求職者数の動き	・求人をしていても応募者が少なく、採用が難しくなっている。売り手市場になっている。	
	新聞社〔求人広告〕（担当者）	求人数の動き	・大都市圏からの求人数が回復傾向にある。ただし、地元まで波及するかは不透明である。	
	職業安定所（職員）	求人数の動き	・新規求人数や新規求人倍率が依然として堅調な動きを示している。	
	学校〔大学〕（就職支援業務）	採用者数の動き	・採用予定数に満たないまま選考活動を終了している企業が見受けられる。また、一時的に増加していた求人数も最終的には前年を若干上回った程度にとどまった。	
やや悪くなっている	人材派遣会社（社員）	それ以外	・入札案件の最低価格が例年より低くなっている。	
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・求人数が減り、求職者数が増えている。	
	人材派遣会社（社員）	周辺企業の様子	・メーカーが生産拠点を撤退する動きが早く、100名以上の退職が見込まれる企業が続出している。このままでは、日本で生産するものは1次産業しか残らない。	
	人材派遣会社（社員）	求人数の動き	・3～4月においては派遣求人数が多くなる時期であるが、事業所の閉鎖や派遣社員対応ポストをアルバイトやパートへ変更する企業が出ている。	
	民間職業紹介機関（社員）	求人数の動き	・単発や短期の人材需要が一段落し、4月からの新需要に期待しているが、前年並みかそれ以下程度の依頼しかない。派遣から新たな人材需要の掘り起こし活動中である。	
悪くなっている	民間職業紹介機関（支店長）	求人数の動き	・求人数が前年実績を下回っている。契約満了後の更新や追加、新規の注文数がいずれも前年比マイナスである。	